



〈編集・発行〉  
独立行政法人 国立病院機構  
奈良医療センター  
<https://nara.hosp.go.jp/>

# りえぞん

Liaison

vol.42

独立行政法人国立病院機構 奈良医療センター

令和2年5月

医療関係者の皆様へ 「りえぞん」(Liaison)とは、フランス語で「連携・つなぐ」といった意味をもちます。  
奈良医療センターは、地域の医療機関との連携を深め地域医療の推進に努めていきたいという思いで付けました。

### 病院理念

私たちは、質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援することにより、信頼される病院を目指します

### 令和2年度 病院目標

呼吸器疾患と神経疾患を中心とした「面倒みのよい病院」の機能を高める



Contents

● 未曾有の危機に際して—今こそ一致団結	● 脳神経外科の紹介 下川原立雄医師	————— 4・5
院長 平林秀裕	————— 2・3	● 着任ご挨拶 (大西明子・輪島大介)
● 入院セット始めました♪	————— 3	● 連携施設のご紹介コーナー VOL.4
		————— 6



院長 平林秀裕

## 未曾有の危機に際して —今こそ一致団結

今日も日々新型コロナウイルス症患者が増えています。奈良県においても行政、大学、病院協会、医師会が一丸となって新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでいます。世界の英知を結集して、日夜、治療方法が開発され、一部有効な薬剤やワクチンも報告されています。しかしながら今日現在、最も確実な方法は、「隔離」という原始的な方法であることは周知の事実であります。現代社会は、あらゆることが分業で成立しています。わが身を振りかえっても、日々の米は、農家の方が作ったものを買って食べ、服一着にしても、原料の生糸や綿花は、外国で作られ、輸入して糸にし、さらに布に加工され、輸出されて中国で縫製されて、洋服屋に並ぶ。生存に必要な、衣食住も他人の力なしでは成り立たちません。それ故、「隔離」というのは、私たちにとって生存を脅かす大変なストレスで、それを患者さんや全ての人に強いることは、社会全体に大きな負担となります。

ところで、今から200年前のクリミア戦争で活躍したナイチンゲールは、今年5月12日に生誕200年を迎えますが、「感染制御の母」とも呼ばれています。彼女は、傷病兵の多くが、銃弾で直接亡くなるよりもはるかに多くの兵隊が、2次感染で亡くなることに気づき、環境整備、とりわけトイレなどの清掃や患者が外気と同じ清浄な空気で呼吸できることの重要性を述べていますが、これらの考え方は、新型コロナウイルス感染症対策でも全く同じことがいえると思います。ところで彼女は、「患者に対する気遣いの重要性」も説いています。「隔離」というと何か全てのものから遮断してしまうかのような言葉の響きがありますが、基本的に飛沫・接触感染である新型コロナウイルス感染症では、唾液、鼻汁などが飛沫する約2mの距離があれば直接うつることはないのです。この「物理的な距離」を保つことが必要ということなのです。「気遣い」を隔離する必要はないのです。医療従事者は、患者さんをよく観察することで患者さんを治療し励まし、家族や友人は、文明の力であるスマートホン



等を使えば、患者さんを励ましたり、慰めたりできて「心の健康」を回復させることができます。「隔離」といっても患者さんを孤立させてはいけません。

新型コロナウイルス感染症の厄介なところは、明らかに発症している患者さんだけが、他の人うつすというわけではなく、一見元気にみえる感染者も人にもうつしてしまう点です。一方、当然のことながら、病院は、コロナウイルス感染症以外の病気の治療も行わねばなりません。病院では、院内感染の防止に努めているところですが、職員が感染予防に取り組むことはもとより、患者さんやご家族の方にもご協力いただかななくてはなりません。具体的には、コロナウイルス陽性患者さんの唾液が飛沫して、それが眼や口から入って感染するので、全ての人がマスクをして、距離（2 m）をとることが重要です。それ故、病院内では必ずマスクを着用していただき、接触の機会を減らすために面会を禁止し、普段と変わりなく、薬剤の投与のみで足りる患者さんには、電話での診療をさせていただいているところです。

私達、奈良医療センターの職員一同は、患者さんや地域の皆さんの命を守るために日夜努力しています。これは単に「新型インフルエンザ等対策特別措置法第2条に基づく指定公共機関として、緊急事態にあっては、自ら定めた業務計画に基づき、医療を確保するための必要な措置を講じる」という法に基づいて行っているというより、職員が、「命を守る」という使命感をもって戦っているのです。この点を、是非ご理解いただき、患者さんも医療者も一致団結して、この国難を乗り越えたいと思います。

今も、また救急車のサイレンが鳴っています。

2019年12月より入院セットのレンタルを始めました。

患者様やご家族様に好評を得ております。



## 入院セット始めました♪

★入院セットを契約して頂くと入院に必要なアメニティーが付きます。また、寝衣やタオルは業者が洗濯するため手ぶらでの入院ができます。



# 脳神経外科の紹介

脳神経外科医長  
下川原 立雄

当院脳神経外科では、パーキンソン病、振戦、ジストニア、難治性疼痛、痙縮、てんかんなどの機能的脳神経外科領域の診療と、脳血管障害、脳腫瘍、水頭症、慢性硬膜下血腫などの一般的な脳神経外科疾患の診療を行っています。

## 【機能的脳神経外科】

パーキンソン病は、脳の神経伝達物質（ドパミン）が不足することによって動作が緩慢になったり、手足が震えたりする病気です。まずは薬物による治療が行われますが、薬物で症状のコントロールが困難な場合に定位脳手術を行っています。その他、本態性振戦、書痙、ジストニアなども定位脳手術の対象となります。定位脳手術には、凝固術や脳深部刺激術（DBS）があります。凝固術は、高周波凝固装置で脳深部の組織を熱凝固する治療法で、脳深部刺激術は脳の深部に刺激電極を植え込む治療法です。これによって神経組織を調整・制御することで、症状を改善させることができます。その他、神経障害性疼痛などの難治性疼痛に対する外科的治療として脊髄刺激療法（SCS）や、脳卒中や脊髄損傷などによって起こる痙縮に対する治療として、バクロフェン髄腔内投与療法（ITB療法）なども行っています。SCSは、脊髄硬膜外腔に電極を留置し、電気刺激を行って疼痛の緩和を図る治療法で、ITBは、専用のポンプを植え込み、薬剤（バクロフェン）を脊髄髄腔内に持続的に投与する治療法です。このような神経組織を電気や薬物で刺激して神経活動に治療的に干渉する方法は、ニューロモデュレーションと言われています。

## 【てんかん】

てんかんは、脳の神経細胞が異常な興奮状態になって発作が起こる疾患です。当院では、てんかんセンターで専門医による診療を行っています。必要に応じて長時間ビデオ脳波同時記録を行い、さらに詳しく病型診断、焦点検索に関する評価を行っています。



## 【一般的な脳神経外科疾患】

脳血管障害（脳卒中）は、脳の血管の異常によって脳梗塞や脳出血などが起こり、運動麻痺や感覚障害、失語などさまざまな障害が起こる病気です。病態に応じて内科的治療、外科的治療を行い、さらにリハビリテーション科の先生とも連携してリハビリテーション治療を行っています。また、脳卒中後に起こってくる痙縮や難治性疼痛に対しても治療を行っており、さらなる機能の改善を図っています。また、脳梗塞の原因となる、頸部の内頸動脈狭窄症に対する外科的治療としては、直達手術（頸動脈内膜剥離術）だけでなく、カテーテルを用いた血管内治療（ステント留置術）も行っており、病態により適した治療法を選択しています。

正常圧水頭症は、脳内の脳室という部位に脳脊髄液が過剰に貯留する疾患で、クモ膜下出血、髄膜炎などが起こった後に起こる二次性の正常圧水頭症（sNPH）と、原因の明らかでない特発性の正常圧水頭症（iNPH）があります。画像検査やタップテストを行って診断、治療方針を決定しています。手術は、脳室腹腔シャント術（VPシャント術）や腰部くも膜下腔腹腔シャント術（LPシャント術）などを行っています。

慢性硬膜下血腫は、頭蓋内に被膜に包まれた血腫ができ、徐々に大きくなっていく疾患で、比較的軽微な外傷が原因で起こることが多いといわれています。大きくなると脳を圧迫して頭痛、運動麻痺、認知機能障害、意識障害などの症状が出現し手術治療が必要となります。

今後も丁寧で信頼される医療を行いたいと思います。  
どうぞよろしくお願いいたします。

## 着任ご紹介



大西 明子  
副看護部長

2020年4月1日付で着任致しました、副看護部長の大西明子と申します。これまで副看護部長として5年間は、急性期病院で勤務してありましたので、セーフティネット系施設での勤務は初めてとなります。それでも、これまでにいろんな施設で一緒にさせて頂いた方のお顔がたくさんあり、とても心強く思っております。色々、お尋ねすることがあると思いますが、よろしくお願いいたします。

私は、奈良県大和高田市で生まれ幼少期を奈良県で過ごしましたので、故郷に帰って来たようで、毎日の通勤電車の中から、奈良の景色を楽しんでおります。奈良医療センターの周辺は本当に美しく、これからも四季の移り変わりを楽しみながら、少しでも奈良医療センターに貢献できるよう努力してまいります。

よろしくお願いいたします 〇〇〇



輪島 大介  
脳外科医師

2020年2月より当院に着任した輪島 大介です。  
奈良県立医科大学の出身で、当院に来る前は大阪の警察病院で一般脳神経外科医として勤務していました。よろしくお願いいたします。

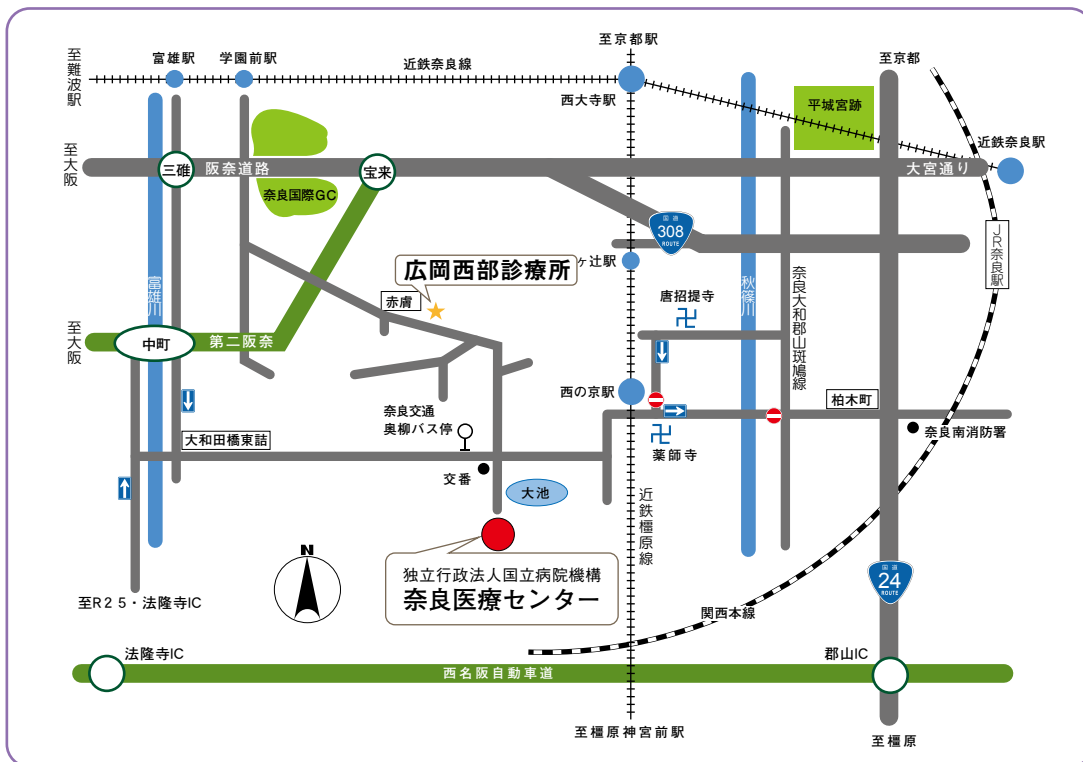


# 広岡西部診療所 (愛生会)

広岡 孝雄 院長

昭和23年に、私の父が奈良市瓦堂町に診療所を立ち上げました。その後昭和46年に、現在まで有る奈良市赤膚町に入院出来る診療所を作りました。その当時は前の道に雨が降ると、アスファルト舗装ではない為にぬかるみとなる程の、自然の中にあるポツンとした診療所でした。父は他界しましたが、そのあとを継いで昭和61年に地域の医療の為に戻ってきました。私が帰る前にレンガ造りの診療所を、患者様の立場に立って新しく建て替えました。今は診療所の周りに多くの家が建ち並び、住宅地の中にあります。入院は無くしましたが、駐車場は13台近く停められるので、車で診察にお越しになる患者様が多くおられます。私は腹部外科出身ですが、全身管理の為に多くの内科的な事を学び、総合的な診療医として内科、外科、泌尿器、皮膚などの診療科を診ております。ただ専門的な診察が必要な場合は、奈良医療センターが近く、多くの患者様の紹介を通じて良好な関係を築いています。(2020年3月記)

**診療科目** 内科 外科 泌尿器科 皮膚科  
**診療時間** 月火木金9:00~12:30 18:30~20:30  
 土9:00~12:20 水 予約診察☎必要  
 休診 日曜日 祭日



独立行政法人 国立病院機構  
**奈良医療センター**  
**地域医療連携室**

〒630-8053  
 奈良市七条2丁目789  
 TEL.0742-45-4591 (代表)  
 TEL.0742-45-1563 (直通)  
 FAX.0742-45-4901 (直通)